

英語

ごい 語彙 (問題冊子p.4～p.6)

1

解答

- (1) ① (2) ④ (3) ① (4) ②
(5) ② (6) ④ (7) ② (8) ②

解説

(1) **have a (very) good time**で「(大変) 楽しい時を過ごす」という意味になる。この意味で②giveは使われない。③take time「時間がかかる」、④make time「急ぐ」はそれぞれ別の意味を表す熟語である。

(2) **give up**～で「(考え・希望など)を捨てる、あきらめる」の意味になる。①give on～は「(窓などが)～に面する」、②give inは「降参する」、③give back～は「～を返す」の意味である。

(3) **take care of**～の形で「～の世話をする、～の面倒を見る」という意味。したがって正解は①。②③④では意味をなさない。なお、care forやlook afterでも同じ「～の世話をする」という意味になるので、セットにして覚えておこう。

(4) 「彼はコートを着て、その部屋から出ていった。」

①は「～をやめる、あきらめる」、②は「～を着る、身に着ける」、③は「(芽・葉など)を出す」、④は「降参する」という意味のそれぞれの過去形。空所直後のhis coatに続いて自然な意味の文になるものは、②put on。

(5) 「私たちはバス停でバスに乗るつもりだ。」

get on～で「～に乗る」の意味を表す。正解は②。①take on～は「(乗り物が)～を乗せる」

の意。③は意味をなさない。④は「～を身に着ける」という意味である。

(6) 「通りを歩いているとき、私は外国人に話しかけられた。」

speak to～で「(人)に話しかける」という意味になる。本問のカンマ以下は、a foreigner spoke to meの受動態の形である。

(7) 「彼女の乗る飛行機は、次の月曜日に成田空港を出発するだろう。」

正解は②take off。take offには、この「(飛行機などが)離陸する」という意味のほかにも、「(靴や服など)を脱ぐ」という意味がある。①は「～を降ろす、～を書き取る」、③は「出てくる、(花が)咲く」、④は「降りてくる、(飛行機などが)着陸する、(建物などが)取り壊される」という意味。

(8) 「トムに電話をして我々が行くことを知らせるよ。」

callはよく用いられる基本動詞の一つであるが、後ろにくるものによって意味が異なるので、注意しよう。

①は「(場所)を訪問する」、②は「(人)に電話をかける」、③は「立ち寄る」、④は「(試合など)を中止する」という意味である。文全体の意味から考えて、②call upが正解。これはphone～、ring up～に書きかえることができるので覚えておこう。

解答

- [A] (1) tell (2) listen (3) take
 [B] (4) ③ (5) ② (6) ③
 (7) ③ (8) ②

解説

[A]

(1) 「駅までの道を教えてください。」

tellは「人」と「物・こと」の両方を目的語にとることができ、「(人)に(物・こと)を言う、教える」の意味になる。与えられた文の空欄のあとに、meとthe way to the stationという2つの目的語があるので、tellが正解。「人」と「物・こと」の両方を目的語にとることができるのはtellだけで、say, talkにこの用法はない。

(2) 「彼女はロックを聞くのが好きです。」

listen to～で「～を聞く」の意味になる。よって正解はlisten。hearも「～を聞く」の意味だが、toを必要としない。

(3) 「私たちは寺の正面で何枚かの写真を撮る予定だ。」

take a pictureで「写真を撮る」の意味。make, haveを入れたのでは、文の意味が不自然になる。

[B]

(4) 「あなたはフランスに帰るそうですね。あなたがいないととても寂しくなります。」

③missには、「～をはずす、欠く」の意味のほかにも「(人)がいないのを寂しく思う」という意味がある。①breakは「～を壊す」、②loseは「～を失う」、④writeは「(人)に手紙を書く」という意味である。③か④が考えられるが、④はvery muchと合わないのので、③が正解。

(5) 「昨日は寒かった。私は風邪をひいてしまった。」

前の「寒かった」という内容から「風邪をひいた」の意になるようにcaught a coldとする。正解は②。①、③、④では意味をなさない。

(6) 「彼女は彼に腹を立てた。」

「～に腹を立てる」と言うときはgetを用いる。①②④の動詞では意味をなさない。get angry with～は「～に腹を立てる」という動作を表す。ほかにbe angry with～という表現もあるが、こちらは「～に腹を立てている」という状態を表す。

(7) 「あなたの新しいドレスはいかがですか。」

How do you like～?で、「(好き嫌いについて)～はどうですか、～をどう思いますか」という意味になる。①、②、④の動詞を入れても文の意味をなさない。「～をどう思いますか」という文を①のthinkを用いて表すと、What do you think of [about]～?という形になる。

(8) 「彼女は1等賞をとるために最善を尽くした。」

do one's bestで「最善を尽くす」の意味を表す。正解は②did。①made, ③had, ④tookでは意味をなさない。なお、make the best of～「～を最大限に利用する」という熟語と混同しないように注意しよう。

3

解答

- [A] (1) on (2) under (3) between
 [B] (4) ② (5) ④ (6) ③
 (7) ① (8) ③

解説

[A]

(1) 「あなたの辞書は机の上にある。」

onは位置的に「(表面に接触して)～の上に」を表す前置詞である。onは「接触」を表すことに注意しよう。overも「上」を表すが、離れて真上、または、おおいかぶさる感じを伴う。

(2) 「靴はベッドの下にあった。」

underは「～の下に」の意味を表す。betweenは2つの時点、場所、人、項目などの間を表すので、the bedsと複数形ならば可能であるが、単数形なので不適当。

(3) 「この列車は東京・大阪間を走る。」

(2)で見たように、betweenは「(二者)の間で」を意味する。ここでは「東京と大阪の間」を表しているのので、これが正解。amongは「(3つ以上のもの)の中で[に]」、overは「(おおいかぶさるように)～の真上に」という意味なので不適当。

[B]

(4) 「通りを横切って歩くときは、気をつけるべきです。」

今いる地点から向かい合った地点へ、道路などを「横切って渡る」と言うときはwalk acrossとなる。①atは一点の場所、③intoは外から内への移動を表し、④withは「～と一緒に」の意な

文法 (問題冊子p.7～p.11)

1

解答

- (1) ④ (2) ④ (3) ④ (4) ③ (5) ②
(6) ④ (7) ③ (8) ② (9) ②

解説

ので、ここでは不適當。

(5) 「背の高い男性が建物の門のそばに立っている。」

is standingとあるので、「方向」や「目的地」を示す①intoや②to, ③forは不適當。ここでは「場所」を表す④byを用いて「門のそばに」とする。

(6) 「デパートへ買い物に行こう。」

go shoppingは「買い物に行く」という意味を表す。このあとに「デパートへ」と続けるのだが、日本語では「～へ」と表すのにつられてto～としないように注意しよう。ここでは「デパートで買い物をする」と考え、go shopping at the department storeとするのが正しい。

(7) 「私たちは火の周りに座って歌を歌った。」

②forはある方向に向かって動くこと, ③intoはあるものの中に入っていくことを表す。④between「～の間に」のあとにはA and Bの形か複数名詞がくる。ここはaround「～の周りに」を用いる。

(8) 「月が地平線の上に昇った。」

このように「(表面から離れて)～の上に」という意味を表す前置詞はaboveである。aboveは真上を含めて広く上方の位置を示すのに使われる。overも「上」を表すが、おおいかぶさる感を伴う。またonも「上」を表すことがあるが、「接触」を表し、必ずしも上方とは限らない。①atは一点の場所, ②intoは「～の中へ」の意味を表し、不適當。④upは「～を昇って, ～の上に」を表すが、月が地平線を昇っていくわけではないので不適當。

(1) 主語が「ケン」と3人称・単数なので、一般動詞playの現在形の否定文は④doesn'tを用いる。

(2) 相手の同意や確認を求めるときには、付加疑問文を使う。付加疑問文は、肯定文には否定形を、否定文には肯定形を使うことに注意しよう。一般動詞の肯定文の場合、“don't (doesn't / didn't) + (主語に対応する) 代名詞+?”となる。したがって正解は④。

(3) 疑問詞whatを用いた疑問文。主語はthatの複数形thoseである。したがって正解は④are。

(4) 「雑誌を見せてくれませんか。」「はい。さあ、どうぞ。」

依頼に対する応答として、人に物を差し出すときの表現。正解は③。

(5) 「メアリーは台所で何を作ったのですか。」

makeは目的語が必要だが、How (どうやって), When (いつ), Where (どこで) はいずれも疑問副詞で、これらを選ぶと目的語のない文になってしまう。これに対し、Whatは疑問代名詞で、makeの目的語になることができる。したがって正解は②What。なお、この文は〈主語+動詞+目的語〉の文型。

(6) 「ジョージも私も空手を習っている。」

主語はBoth George and I。主語であるboth A and Bは常に複数扱いだから、正解は④takeになる。

(7) 「私たちのクラスの生徒数は35名です。」

主語はThe number of studentsである。studentsと複数になっているからといって、②areを選ぶではいけない。the number of～は「～の数」の意味で、単数扱い。したがって正解は③isになる。

(8) 「この国の人々はとても上手に英語を話す。」

主語Peopleはそれ自体が複数の意味を持つ名詞である。正解は②speak。

(9) 「彼女はなんと美しい髪をしているのだろう。」

選択肢の疑問詞と文末の感嘆符から、感嘆文である。空所のあとに、beautiful (形容詞) + hair (名詞) と続いているので、〈what + (a[an]) + 形容詞 + 名詞 + 主語 + 動詞!〉の形。ここでは、hairは不可算名詞なので冠詞は不要。したがって、②が正解。

2

解答

[A] (1) got (2) will be (3) is taking

[B] (4) ④ (5) ③ (6) ②

(7) ① (8) ① (9) ①

解説

[A]

(1) 「シン普森さんは5分前に起きた。」

five minutes agoという過去を表す語句が文の最後にあるので、動詞はgetの過去形gotを用いなければならない。5分前に進行中だった動作ではないので、was gettingのように過去進行形にすることもできない。

(2) 「雨がひどく降っている。でも、私はすぐに晴れると思う。」

この文ではsoon (間もなく) があり、未来に起こると予想されることを言っているので、正解は未来を表す助動詞を使ったwill be。

(3) 「母は今、公園を散歩している。だから電話口に出ることができない。」

nowとcan't comeから時制は現在。文意から「今、散歩中だ」と現在進行形の文にするのが適当である。したがってis takingが正解。なお、take a walkで「散歩する」という意味になることを覚えておこう。

[B]

(4) 「聞いて！ 男の子が舞台上で歌っているわ。」

現在の時点で進行している動作は現在進行形〈be動詞 + ~ing〉の形で表す。また、現在進行形は確定的な近い未来を表す場合もある。

(5) 「私は明日ロンドンに行く予定です。」

tomorrowがあるから、時制は未来である。したがって③が正解。

be going to ~は近い未来やはっきりした意志を表し、口語でよく用いられる。

(6) 「彼はおととい私に手紙を送った。」

the day before yesterdayは「おととい」の意味であるから、時制は過去と考える。したがって

②が正解。ちなみに「あさって」はthe day after tomorrowという。

(7) 「ユミはかばんを作って、それをいすに置いた。」

putの活用はput-put-putで、不規則変化の動詞なので注意しよう。Yumiが主語であるのに動詞に-sがついていないことからputは過去形とわかる。したがって、その前にある動詞も過去形であるはずなので、①のmadeが正解となる。

(8) 「その子供たちは、小さい頃から東京に住んでいる。」

since (~以来) があるので、主節は過去のある時点から現在までの〈継続〉を表す。主語はThe childrenで複数。したがって、正解は現在完了形の①have been。

(9) 「見て！ あちらをその老婦人たちが歩いている。」

この文のようにLook!で示される状況では、現在進行している動作を表す。またwomenは複数形なので、正解は①are walking。

3

解答

(1) ③ (2) ② (3) ② (4) ② (5) ③

(6) ④ (7) ② (8) ① (9) ④

解説

(1) 自分を含めて「(いっしょに) ~しましょうか」と、相手の意向を尋ねるときの表現は、**Shall we ~?**である。Shall we ~?に対しては、ふつう、肯定ならばYes, let's., 否定ならばNo, let's not.と答える。①Can we ~?は、②のMay we ~?とほぼ同様に、相手の許可を求めるときに用いられ、ここでは文意に合わない。

(2) **Would you like ~?**は「~はいかがですか」と勧誘を表す表現。したがって正解は②。

(3) when we were childrenは「私たちが子供だったとき」なので、時制は過去である。②couldが「~できた」とcanの過去の意味を表すので、これが正解。①canは現在形、④will be able toは「~できるだろう」と未来形なので、どちらも時制が合わない。

(4) 正解は②can。canには、「~できる」以外に本問のように「~してよい」という〈許可〉を表す意味がある。

(5) 「ドアを開けましょうか?」「いいえ、結構で

す。」

Shall I ~?は「(私が) ~しましょうか?」という、聞き手が相手の〈意向〉を尋ねる表現。

(6) 「きみは今家へ帰ってもいいよ。」「ありがとう。」

正解は「~してもよい」〈許可〉を表す④may。
①wouldを用いると、現在の〈推量〉の意味となり、「帰宅するかもしれない」の意になるが、「ありがとう」という返答とつながらない。

(7) 「私たちは原っぱでサッカーをしたい。」

②のwould love to ~はwould like to ~と同じ意味で、「~したいものだ」という〈意志〉を表す表現。want to ~よりは丁寧な、しかしhope to ~よりは強い願望を表す。これは慣用表現で、will love to ~とは言わないので①は不適當。

(8) 「空が暗くなってきている。今にも雨が降るかもしれない。」

mayは「~してもよい」という〈許可〉のほかに、「~かもしれない」という〈可能性・推量〉を表す。したがって正解は①。

(9) 「ケンは自分で自転車を直すことができない。だから手伝ってくれる誰かを見つけないといけないだろう。」

must「~しなければならない」はほかの助動詞will, shallなどと一緒に用いることはできないので、have toを用いる。またmustは過去形としては用いないので、過去を表すときはhad toを用いる。

4

解答

- (1) ④ (2) ② (3) ② (4) ④ (5) ①
(6) ① (7) ② (8) ② (9) ③

解説

(1) 「何かお飲みになりませんか。」

「何か飲むためのもの」と、somethingを修飾する形容詞用法のto不定詞を考える。この場合to不定詞は、名詞・代名詞を後ろから修飾する。よって〈something+to不定詞〉の語順の④が正解。

(2) 「彼女は音楽を勉強するためにロンドンを訪れた。」

to不定詞は文中で動詞・形容詞・副詞または文全体を修飾して、目的(~するために)、原因(~して)、理由(~するとは)などの意味を表す。これをto不定詞の副詞用法という。ここでは「勉

強するために」と動詞visitedを修飾する形になる②to studyを選ぶ。

(3) 「私たちのパーティーに来てくれてありがとう。」

Thank you「ありがとう」のあとには〈for+名詞〔動名詞〕〉が続く。したがって正解は②。

(4) 「私は万里の長城へ行きました、そしてあなたにお見せする写真が数枚あります。」

正解は④。**to**不定詞が直前の名詞を修飾して「~するべき、~するための」という意味を表す**to**不定詞の形容詞用法である。

(5) 「彼女は私に助けを求めた。」

〈ask+人+to不定詞〉で「人に~するように頼む」という意味になる。したがって正解は①。

(6) 「このかばんは私が運ぶには重すぎる。」

〈too+形容詞〔副詞〕+to不定詞〉の構文で「~するには…すぎる、あまりにも…なので~できない」という意味を表す。したがって、①が正解。

(7) 「私は夜は外出すると言われた。」

〈tell+人+to不定詞〉は「人に~するようにと命じる」という意味になる。本問の場合は「~しないように」と否定を表す語をどこかに入れなければならない。to不定詞を否定するときは、**to**不定詞の直前に否定語(**not**や**never**など)を置く。

(8) 「ものを書くためのペンを私に貸してください。」

write () a penの関係が成り立つようにするには、「ペンで書く」と道具を表すwithでなければならない。正解は②。③や④の現在分詞の場合、a penとwritingは「~している…」という関係になり、ここでは意味をなさない。

(9) 「彼女に何と言ったらいいのかわからなかった。」

正解は③。〈what+to不定詞〉で「何を~すべきか」という意味を表し、what I should ~で言い換えられる。

5

解答

- [A] (1) built (2) crying
(3) was named
[B] (4) ② (5) ① (6) ②
(7) ③ (8) ② (9) ①

解説

[A]

(1) 「この教会は100年前に建てられた。」

buildは「～を建てる」という意味なので、This churchとの関係から「～された」という受け身の形で表す。したがって、builtが正解。

(2)「木の下で一人で泣いている少年は誰ですか。」

cryは「泣く」という意味なので、the boyとの関係から「～している」という意味を表す形容詞的用法の現在分詞を選ぶ。

(3)「その赤ちゃんは両親にクミと名付けられた。」

「～によって」という意味を表す前置詞byがあることから受け身の形ではないかと考える。また、nameは「～に名前を付ける」という意味の動詞なので、the babyとby her parentsの関係から「名付けられた」となるwas namedが正解。

[B]

(4)「私の姉〔妹〕は中国製のテレビゲームをしている。」

文意から、a video gameを後ろから修飾するmakeの形を考える。「テレビゲーム」は「中国で作られた」という受け身の関係になる。

(5)「あなたは油で揚げたその魚を食べたことがありますか。」

fryは「～を油で揚げる」という意味なので、fishとの関係から「～された」という受動的な意味を表す形容詞用法の過去分詞を選ぶ。

(6)「その夜、空にたくさんの美しい星が見えた。」

正解は②。〈be動詞＋過去分詞(＋by＋動作主)〉で「(…によって)～される」という意味の受け身を表す。「星が見られた」という受け身の関係が成立するので、〈be動詞＋過去分詞〉の形を用いる。

(7)「彼は新しい自転車が気に入っていた。」

動詞pleaseは「～を喜ばせる」という意味。「(人が)喜ぶ」という場合には受け身の形で表すので、be pleasedとなる。②pleasingは「(人に)喜びを与える、楽しい」の意味になる。

(8)「1時間後、パットは走るのをやめて、再び歩き始めた。」

正解は②。ここでのstopは他動詞で「～(するのを)やめる」という意味なので、目的語には動名詞(～ing)を置く。〈stop(自動詞)＋to不定詞〉の場合は、「～するために(立ち)止まる」という意味になるので注意しよう。

(9)「数年前に私に会ったことを覚えていますか。」

〈remember＋動名詞〉で「～したことを覚えている」という意味になる。〈remember＋to不定詞〉だと「忘れずに～する、～するのを覚えている」という意味になる。

文構成 (問題冊子p.12～p.13)

1

解答

[A]

- (1) (I) (found) (a seat) for (the) (old) man.
- (2) (The pen) on (the) (desk) (is) not (his) .
- (3) He (has) never (written) (such) a (long letter) before.
- (4) We (have) (known) each other well (since) we (were) (children) .
- (5) I will (go) (out) (after) I (finish) (lunch) .
- (6) What (kind of) (sports) are (you) (interested) (in) ?

[B]

- (7) (Today's paper) (says) (it) (will) (rain) tomorrow afternoon.
- (8) The letter (from) (his mother) (made) (him) (happy) .
- (9) She served me hot milk (though) (I) (wanted) (something) (cold) to drink.
- (10) (He) (looks) (very) (happy) (about) the success of his business.

解説

[A]

(1) 文型を考えるとときに大切なのは、「誰が何を」する〔した〕の部分だ。本問では、日本語の〈主語＋動詞〉が「私＋見つけた」なので、I foundで始めればよいとわかる。次に目的語(「何を」に当たる部分)は「席を」なのでa seat。最後に、「～のために」の意味のforのあとにthe old man(そのおじいさん)を入れる。

findが「AにBを見つける」を意味するときには、2種類の形で表すことができる。本問のfind B for Aの形と、find A Bの形だ。したがって本問の英文は、I found the old man a seat.と表すこともできる。

(2)「机の上のペン」という日本語や、与えられた英文の中にonがあることから、the pen on the deskのまとまりがまずできる。動詞はisで、「彼

のもの」を意味するhisがnotのあとにきて補語の働きをしている。「(人)のもの」を表すmineやyoursなどの中でも、「彼のもの」を表すhisは所有格「彼の」のhisと間違えやすいので注意しよう。

(3) 「書いたことがない」とあるので、「今までに～したことがある」という経験を表す現在完了形を使うと考えよう。主語のHeが与えられているので、それに続けてhas (never) writtenとなる。次に「そんな長い手紙」の部分だが、aが与えられているので、直後に名詞が入ることがわかる。したがって、such a long letterの語順になる。

(4) 日本文と語群から、「今までずっと～である」の意味の現在完了形を用いればよいことがわかる。与えられたeach other「お互い」の位置から、We have known each other wellとなる。「子供のころから」は、「～以来」のsinceを用いてsince we were childrenとする。

(5) 2つのIがあること、goとfinishの2つの動詞があること、そしてafterに注目しよう。まず「昼食を食べたら」であるが、「昼食を終えたあとに」と考えて、after I finish lunchというまとまりを作る。「出かける」は「外出する」と考えてgo outとすれば正解が導き出せるだろう。

(6) 「どんなスポーツ」という日本語につられて、What sportsで文を始めると、kind ofがどこにもおさまらなくなる。What kind of～…?で「どのような〔どんな種類の〕～が…か」という意味になることを思い出そう。次に、be動詞のareが与えられており、語群にinterestedとinがあるので、be interested inのまとまりができる。したがって全体は、What kind of sports are you interested in?となる。

[B]

(7) 「新聞によると」とあるので、「～によると」のaccording to～を使うと考えるかもしれないが、与えられた語にはtoがない。そこで「新聞が～と言っている」と言い換える点がポイント。「(書物などに)～と書いてある」はsayを用いて表すことができる。「雨が降るだろう」はit will rain。したがってaccordingが不要。

(8) 「手紙を読んで彼はうれしくなった」を表すのにbecameを使う場合には、主語になるheが必要だが与えられた語群にない。そこで、文頭にThe letterがありmadeという動詞があるので、The letterを主語にして「手紙が彼をうれしくさ

せた」という文にすればよいと考えよう。「(主語)が～を…にする」は、〈主語+make+～…〉で表せるので、ここでは、The letter made him happyとなる。さらにThe letterを「母からの」が修飾し、The letter from his motherとなる。したがってbecameが不要。

(9) She served me hot milk (彼女は温かいミルクを出した) とto drink (飲むための) が与えられている。したがって「私は冷たい(飲み)物が欲しかったのに」の部分で完成させることになる。まず「～のに」は、「～だけれども」の**though**を使って表すことをつかむ。次に「冷たい飲み物」をsomethingを使って表現するのだが、**-thing**で終わる代名詞(**something**や**anything**)を修飾する語句はそのあとに置くというルールに注意する。本問のようにcoldとto drinkの二つが修飾する場合はsomething cold to drinkという語順になることも覚えておこう。したがってsoが不要となる。

(10) 「うれしそうだ」という日本語を〈look+形容詞〉という形を用いて表現するのが一つのポイントだ。〈look+形容詞〉で「(見かけが)～そうだ」や「～そうに見える」などの意味を表す。二つ目のポイントは、与えられたthe success of his businessとどうつなげるかである。そこでhappy about～で「～のことがうれしい」の意味になることを思い出そう。He looks very happy about the success～と続ければよい。したがってbecauseが不要となる。

読解 (問題冊子p.14 ~ p.19)

1

解答

[A] (1) ② (2) ③ (3) ③

[B] (1) ① (2) ③

解説

[A]

(1) 母親に駅まで車で送ってくれるよう頼んだAは、母親の空所の発言を聞き、驚いてお礼を言っている。したがって、空所にはAが感謝するような内容が入るので、②「学校まで乗せていってあげましょうか?」が最も適当。④「誰かにしてもらおうように頼んだ方がいいわ。」は逆の内容なので不適切。①「気分はどう?」、③「それは本物よ。」では文脈に合わない。

【訳例】

A: お母さん、駅まで車で送ってもらえない?
B: いいわよ。学校まで乗せていってあげましょうか?

A: 本当に? ありがとう。

(2) 空港にいるBにAが迎えに行くと言っている場面。空所の発言を受けてAは「ほんの2、3分だよ。」と時間を答えているので、どれくらい時間がかかるかを尋ねる文が入る。所要時間を尋ねているのは②「そこへ行くのにどれくらいかかるの?」か③「ここに着くのにどれくらいかかるの?」だが、空所は来るのを待つ側のBの発言なので、②は不適とわかる。①「今何時?」、④「ここへいつ来るの?」は所用時間を尋ねていないので不適。

【訳例】

A: 空港にきみを迎えに行くよ。
B: ここに着くのにどれくらいかかるの?
A: ほんの2、3分だよ。

B: ありがとう。またすぐに(会いましょう)。

(3) Bの空所の発言を受けて、Aは前と同じ内容の質問を繰り返している。したがって、③「何とおっしゃいましたか?」が最も適当。直前のSorry? とともに自然につながる。①「ええ、います。」では席がふさがっていることになり、最後のBの発言と合わない。②「いいえ、いません。」、④「どうするおつもりですか?」では前後の内容

とつながらない。

【訳例】

A: すみません。この席はどなたかいますか?
B: ごめんなさい、何とおっしゃいましたか?
A: どなたかこの席に座っていますか?
B: いいえ。どうぞおかけください。

[B]

(1) レストランの店員Aと客Bとの会話。空所はBの「今晚の食事のテーブルを予約できますか?」に対するAの応答である。Bの発言にa tableとあることから②How many tables? 「いくつテーブルをお取りしましょうか?」は不適。①「何名様でしょうか?」が最も適当。
(2) 店員Aの空所の質問に客Bが「7時です。」と答え、続いてAが「午後7時にテーブル(席)をお取りいたしました。」と確認している。したがって空所には客が店に着く時間を尋ねる内容が入ると考えられる。よって④「何時に出発されますか?」は入らず、③「何時に到着なさいますか?」が最も適当。

【訳例】

A: ご用件をおうかがいいたしますでしょうか?
B: 今晚の食事のテーブルを予約できますか?
A: かしこまりました。何名様でしょうか?

B: 6人です。

A: 何時に到着なさいますか?

B: 7時です。

A: 承知しました。午後7時にテーブル(席)をお取りいたしました。

B: どうもありがとうございます。